

令和5年度1・2学期 分科会実践及び成果と課題

中学年分科会

第3学年 1組 特活 学級活動(2)「話し方、聞き方名人になろう」

2組 道徳科「友だちやもんな、ぼくら」

特別の教科 道徳	特別活動	体育科
<p>○友情、信頼の内容において、以下の学習活動を行い、他者及び自己へのはたらきかけの育成を図るとともに、心情を養う。</p> <ul style="list-style-type: none">・思考ツールを使って自分の考えを表明することで、自己の内面と向き合い、多面的に考えられるようにする。・トリオでの交流やペア対話のコメントで他者へのはたらきかけを意図的に生み出す。・友達との関わりにおいて、話し方や聞き方を意識して、思いやりのある行動ができるよう、意欲付けをする。	<p>○学級活動(2)を通して、話し方、聞き方のよりよい態度を身に付けさせることで、以下のことが期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の意見を伝えようという気持ちを高めることができる。・友達の意見を聞けるようになることで、他者を受け入れる気持ちを養うことができる。・話し方、聞き方で自分が努力すべきことを明確にすることで、以後、児童主体の学級会ができる。	<p>○運動会の表現やベースボール型ゲームにおいて、互いに見合って声をかけ合う機会を多くすることで、以下の3つのことが期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none">・他者に対し明るく前向きな声かけができるようになる。・他者の良いプレーやアドバイスを認め発表することで、互いに技能を高め合い、自己肯定感を育むことにつながる。・学習カードに友達へのメッセージを書かせることで、互いの良さを伝え合うことができる。

【成果】○スクールタクトで「話し方、聞き方が上手になると、どんないいことがありますか。」というアンケートを取り、導入の部分で紹介した。普段あまり発言をしない児童や、授業にそぐわない発言をしてしまうような児童のアンケートを紹介することで、そのような児童が友達から認められる時間となり、自己肯定感を高めて展開に入ることができた。

○スクールタクトで「いい友達とはどんな友達ですか。」というアンケートを取り、自分の考えを表明することができた。また個々の考えを、周りの友達も知ることができた。

【課題】▲事前のアンケート内容が肯定的な回答を促す設問となっており、差異があまり見られなかったため、設問の工夫が必要であった。

▲聞き方、話し方名人になるために自分の課題に合った「努力すべきこと」を決めた際、具体的な数値などがあると行動目標として実践しやすい。(例「3人の友達に毎日挨拶をする。」)

▲「友達がいて、「良かったな」と思うことはありますか。」という質問に対して、「ない」という児童が複数名いた。友達に助けってもらってどう感じたかに焦点を当てての発問が必要だった。

特別の教科 道徳

- 友情、信頼の内容において、以下の学習活動を行い、他者及び自己へのはたらきかけの育成を図るとともに、心情を養う。
- ・心情のものさしや、ハンドサインを使い自分自身の内面を見つめ、自分の意見をもとうとする意欲を高める。
- ・トリオでの交流やペア対話のコメントで他者へのはたらきかけを意図的に生み出す。
- ・これからの友達との関わりにおいて、互いに信頼し助け合おうとする姿を言語化する。

特別活動

- 学級会において、以下の取組を行う。
- ・自分自身の役割を意識して学級会に取り組めるようにするために、司会グループを輪番制で受けもち、学級会の流れや役割等を明示したカードを用いる。
- ・他者の意見を受けて自分の意見を言えるようにするためにハンドサインを活用する。
- ・他者の意見を認めたり、相手の立場を思いやったりすることができるようにするために、意見が分かれたときの折り合いのつけ方として、5種類例示する。

体育科

- ベースボール型ゲームにおいて、チームで練習やゲームをし、声をかけ合う機会を多くすることで、以下の3つのことが期待できる。
- ・他者に対し、明るく前向きな声かけができるようになる。
- ・他者の良いプレーやアドバイスを認め発表することで、互いに技能を高め合い、自己肯定感につながる。
- ・学習カードの友達へのメッセージを書かせることで、互いの良さを伝え合うことができる。

【成果】○心情のものさしに、自分の考えを表明させることで、教師が児童の考えを見取りやすくなり、声かけや意図的な指名につながり、多くの児童が発言して認められる場面が生まれていた。

○トリオでの交流の際に、教師が声かけすることにより、友達の考えをほめたり認めたりする場面が見られ、他者へのはたらきかけが高まっていた。

【課題】▲ペアでコメントを送り合う活動の際に、書くだけであった。互いに伝え合うといったことを意識させ、自己肯定感の高まりに発展させていくためには、更なる手だてが必要。

▲道徳科の教材に応じて、適した思考ツールを工夫していきたい。